

県政戦略会議の概要

- 1 開催日時：平成19年2月13日（火）9：00～9：30
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 出席者：知事、副知事、出納長、各部局長等
- 4 欠席者：なし
- 5 議事概要：以下のとおり
（ 議題提出部局説明・回答、 意見・質問 ）

議題1：企業庁のあり方に関する基本的方向について（総務部）

資料1に基づき説明

小西委員会では、水道事業の一元化について、市の水道事業への移譲を結論とする際に、経済的なメリットをシミュレーションするなど、移譲する際のメリットは整理したのか。

一元化を進めるにあたっては、相手方の意向もある。その際の経済的なメルクマールとしては水価が上がるか、下がるかが一つの材料となる。また、定性的な点で水質管理上、国のビジョンにも一元化が望ましい形態であることが示されている。

一元化の際の経済的なシミュレーションはできないということか。

譲渡の際の金額的な試算については、譲渡資産の範囲が確定していないことや伊賀市にあっては、川上ダムの建設費が確定していないことから試算できない。

小西委員会では、財政面での配慮の必要性に触れている。また、水質管理上の観点や危機管理対応などの定性的な部分が重要であるとの議論を踏まえて結論を出された。

一元化により理論的には経済的なメリットがある。それ以外に、危機管理対応の面で即座に対応できる市への移譲、即ち、ニア・イズ・ベターの考え方の下こういった結論に至った。定量的な分析については、いくつかの要素が確定した時点で、相手方から求められた際、分析する必要はあると考える。

小西委員会では、県民の目線でしっかりと議論されたとあるが、具体的にはどのようなことか。

小西委員会の検討の手順と中味であるが、現地調査を行い、水道事務所の職員との意見交換を行ったほか、市町の意見も聴き取るなど非常に丁寧に議論を行っていた。

また、「新しい時代の公」の考え方の下での公的関与の判断基準（「県が担う領域の判断基準」）をものさしにして議論いただくとともに、県民中心のメンバーでメンバー自身のそれぞれの思いや考えを十分出し合って結論に至ったと認識している。

昨年、企業庁自身があり方を検討した。県民からすれば、企業庁の内部検討とも見られることから、小西委員会では、県民が主役という観点に立って検討していただいたと認識している。

したがって、この結論をすぐ見直すということのないように、十分議論していただくようお願いしたし、議論されたと思っている。

市への一元化について、相手方と1つ1つ丁寧に詰めていく必要がある。これからスタートを切っていくということを各部長にご理解と協力をお願いしたい。

市への一元化については、市によっても温度差が違う。今後、市町との協議の場を設置する。

相手方と十分議論を詰めていく必要がある。

「企業庁のあり方に関する基本的方向について」の内容は了。

以上